

注目ポイント！

- 過疎の元凶「豪雪」を逆手にとり、観光資源として活用。
- 「住民主役のまちづくり」により住民の自信回復と自立を目指す。



**スキー場開設により観光客年間50万人の新たな観光地に！
越後田舎体験事業により、23校2,700人を集客(平成17年度)！**



キューピットバレイスキー場

コラム

旧安塚町役場で勤務していた頃から過疎化に悩む町の活性化に取り組む。「豪雪」を逆手にとった、雪の商品化やスノーフェスティバルはその代表例である。

前安塚町長として就任して以来、「雪国文化村構想」を掲げ、棚田の保存、町全体を対象とした景観条例、体験型観光等美しく環境に配慮したまちづくりを推進している。



観光カリスマ
矢野 学氏
(上越市議会議員)

これまでの経緯

昭和61年(1986)	「田舎売ります」、「雪の宅配便」を開始する。
昭和62年(1987)	サヨナラ後楽園球場スノーフェスティバルが開催される。
平成 元年(1989)	矢野氏が旧安塚町長に就任する。
平成 2年(1990)	財団法人「雪だるま財団」が設立される。 キューピットバレイスキー場がオープンする。
平成 3年(1991)	雪国文化圏シンポジウム「雪国の景観デザインを探る」を開催する。 「安塚町の風景を守り育てる条例」が施行される。
平成 9年(1997)	第三セクター鉄道「ほくほく線」が開業する。
平成10年(1998)	東頸城郡5市町村と連携し、「越後田舎体験事業」を開始する。
平成11年(1999)	第三セクターとして「(株)キューピットバレイ」が設立される。 第2回明るい雪自治体会議(雪サミット)が開催される。
平成13年(2001)	越後田舎体験事業が過疎地域自立活性化優良事例表彰を受賞する。
平成14年(2002)	安塚小学校が雪冷房を導入する。
平成15年(2003)	安塚中学校が雪冷房を導入する。
平成16年(2004)	NPO法人「雪のふるさと安塚」が設立される。

当該地域は「わたしの旅100選」(平成17年)として選定されたプランに含まれています。

雪だるま財団

旧安塚町や地域住民等の出資により設立された「雪だるま財団」は、雪を観光面だけではなく、地域住民の暮らしにも活用するべく、夏期冷房エネルギー「雪冷房」の研究やコンサルティングを実施。また、越後田舎体験事業を通じた交流活動や雪国環境インストラクター養成講座の実施等、地域の資源を活かした観光まちづくりを推進。



雪国環境インストラクターの活動

越後田舎体験事業

冬のスキー場だけでなく、四季に応じて自然とふれあう機会を都市生活者にも提供しようと、東頸城郡の町村が連携して開始した、稲刈り・田舎料理、雪下ろし等の体験型事業。

関係者の協力の下、同郡の連携地域の負担金や地元の宿泊業者・体験施設からの会費等により事業を運営し、数多くの集客を実現。



越後田舎体験事業

キュービットバレイスキー場

バブル崩壊による旧運営会社の撤退後は、第三セクター「(株)キュービットバレイ」が運営。雪国体験プログラムの実施による修学旅行誘致等、数多くの冬季県内外客誘致に成功。また、夏期誘客のターゲットとして、近郊客向けに開催する「わくわく動物園」等により、地域の賑わいを創出。



わいわい動物園の賑わい

スノーフェスティバル

NPO法人「雪のふるさと安塚」が主体の雪のふるさと安塚を代表するイベント。地域住民が総出で作業を行い、町中の沿道ぞいにたくさんの雪像や、5万本のキャンドルを灯し、幻想的な世界を演出。各地域では雪茶屋を設置し、観光客に温かいおもてなしを提供。



周囲を照らすキャンドル

問い合わせ先

○ 上越市安塚総合事務所

Tel : 025 - 592 - 2003

<http://www.city.joetsu.niigata.jp/yasuzuka/index.html>